

施策評価シート

担当課：市民健康課

1 総合計画上の位置づけ

施策名	地域医療
政策名	地域全体で「人」を支える
施策がめざす将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療体制、医療機器及び診療体制が充実し、休日や夜間においても適切な医療が受けられます。 地域の診療所や病院が連携することで地域医療体制が整い、どの地域においても安心して医療サービスを受けることができます。

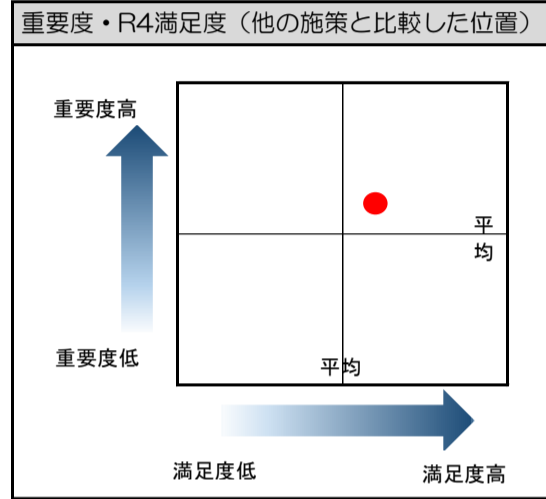
2 施策評価指標

成果指標名	単位	基準	令和4年度目標	令和9年度目標	
医学生修学研修資金貸与者のうち市内の医療機関に従事した者	名	1	4	5	
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	1	1	0	0	0

3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（％）
令和3年度
99.8

満足度（満足している市民の割合）／単位（％）		
令和3年度	 DOWN	令和4年度
92.6		92.2



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

市内どの地域でも安心して医療が受けられる体制は必要であり、調査から重要度も高い結果となっています。診療所は過疎化の進む高齢化率の高い地域にあることから、急速な人口減少に伴う患者の減少が見込まれます。現状を分析し、令和5年度からは洞戸診療所と板取診療所の機能は残しつつ診療体制を変更し、診療所経営の側面からも効果的かつ効率的な地域診療体制を構築していきます。また、地域医療を担う医師等の支援体制を構築していきます。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

事務事業名①：洞戸診療所診療支援事業

R4決算額 （千円）	重点化（縮小）する細事業 （主なもの2事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
10,191				中核医療機関からの診療支援は継続的に必要です。令和5年度から洞戸診療所と板取診療所で常勤医師1名を中心に、中濃厚生病院、朝日大学歯学部附属病院、岐阜大学病院医学部からの診療支援を受けながら地域医療を維持・確保していきます。	

事務事業名②：板取診療所診療支援事業

R4決算額 （千円）	重点化（縮小）する細事業 （主なもの2事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
2,232				中核医療機関からの診療支援は継続的に必要です。令和5年度から洞戸診療所と板取診療所で常勤医師1名を中心に、郡上市民病院からの診療支援を受けながら地域医療を維持・確保していきます。	